2025年　年頭挨拶

2025年1月6日　今井康之

2025年の年頭にあたって、ご挨拶を申し上げます。

2024年の４月から、理事長兼学長に就任してから９ヶ月たちましたが、国内はもとより国際的にも流動性が高い状況となって、大学の方向性を定めることに難しさが増していると感じています。

令和６年度も、残り少なくなりましたが、本年度が第３期中期計画の最終年度となり、今年の４月から始まる令和７年度は、以後６年間にわたる第４期中期計画の初年度となります。これからは、各年度での年度計画の書類作成や、評価委員会からのヒアリングがなくなります。そのかわり、中期計画の項目ごとの評価指標の達成度によって、評価委員会から毎年評価されることとなります。評価指標の達成度は、県からの財政支援に大きく影響しますので、今年度の残りの期間において、評価指標の設定について十分な検討が必要と考えています。

昨年の学園祭は「剣祭」および「橘花祭」ともに対面で開催され、大学らしいキャンパスが戻ってきたと思います。

ところで、若年層の人口減少から大学入学志願者が減少傾向にあります。実は、静岡県内の大学の収容能力は、県内の高校卒業生の数を下回っています。しかし、大学進学を機会に首都圏に転出する人が多いのも事実です。一方で、首都圏に転出した学生が、就職時に静岡県に戻る、いわゆるＵターンが少ないという、悪循環があります。この状況をふまえた上で、本学としては、「受験生から選ばれる大学」になる必要があるでしょう。

静岡県の弱点の一つとして、研究人材の蓄積が少ないことが指摘されています。研究人材は、地域の産業の振興にも不可欠です。研究人材の蓄積をすすめるためには、研究志向のある大学院学生を集

めることが重要です。残念ながら、博士課程の定員を充足していないのが現状です。研究志向の学生を集めるには、教員自身の研究に独自性があり、研究内容が周囲から認められる必要があります。現役の教員の努力はもちろんですが、そういう資質をもった教員を採用することが重要でしょう。

地域との関係としては、大学の研究成果を普及や還元するという一方通行の関係ではなく、大学の研究成果を地域と共有できるよう努力するのが良いのではと考えます。地域との対話が重要でしょう。まず研究を一部の専門家に丸投げして安心する風潮は改める必要があると思います。逆に、専門家の責務は、「市民が分かる」ことをめざすことではないでしょうか。専門家側は、分かり易い説明をすべきだとも言われていますが、そうではなく「分かるように話す」ことが重要だと思います。実は、「分かるように話す」のは難しいことです。話しているうちに、自分も分かっていないことを実感することが、しばしばあるからです。

昨年の 12 月に、県のスポーツ・文化観光部の声かけで大学サミットが開かれました。県内の大学等の高等教育機関と、産業界、県をはじめ行政機関が集まり、意見交換が行なわれました。

人口減少をふまえた、地域の高等教育の在り方の模索という内容です。

第一に、地域に求められる人材育成に向けた産学官の連携
第二に、高等教育機関の持つ研究資源の活用
第三に、静岡県の高等教育の今後の在り方
という内容で、意見交換がありました。

地域コミュニティーの維持には、地域での産業の活性化が欠かせないこと、大学に求められるのは、産業の活性化に資する人材育成機能と研究資源であること、などの意見が出され、これらに応える

には、日常的、持続的な研究活動の実践が鍵となります。

産業界から求められる人材像としては、「問題発見能力」および「チームワークになじむコミュニケーション能力」で、研究の遂行に必要な能力と同じ方向性と考えられます。研究資源については、大学の研究内容が産業界に余り知られていない点にも問題の一つがあるようです。研究内容の広報と、研究ニーズの収集の両方向の活動が必要でしょう。

また、卒業生の地域産業への就職については、産業界と就職希望者との対面での交流機会を増やす必要性が感じとられました。また、起業については、起業してから株式上場までに平均 20 年かかるのが現実なので、粘り強い企業活動の持続が必要であることを実感しました。

大学としても、国の研究強化プロジェクトや大学院学生の支援事業には、引き続き積極的に申請する姿勢を続けることが肝心だと考えます。

ところで、昨年の 12 月に、公立大学協会の主催で、文部科学省からのオンライン説明会がありました。2035 年から 2040 年にかけて、急激な大学入学志願者の減少が予測されることをふまえ、「高等教育の在り方」について中教審の大学分科会が令和 6 年度中に一定の結論を出すことが予告されています。その中には、「大学の研究力の引き上げ」、「学生への経済的支援」、「地方創生の核としての大学」という内容が重点課題に含まれるようです。

しめくくりに、教員と職員、ともに知恵を出し合って、「選ばれる県立大学」として、新年の活動が開始そして継続されることを願い、年頭のご挨拶といたします。